

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和5年4月13日(2023.4.13)

【公開番号】特開2023-25187(P2023-25187A)

【公開日】令和5年2月21日(2023.2.21)

【年通号数】公開公報(特許)2023-034

【出願番号】特願2022-193805(P2022-193805)

【国際特許分類】

C 07 K 19/00(2006.01)	10
C 07 K 16/16(2006.01)	
C 07 K 14/725(2006.01)	
C 12 N 5/10(2006.01)	
C 12 N 5/02(2006.01)	
A 61 P 35/00(2006.01)	
A 61 P 37/04(2006.01)	
A 61 P 35/02(2006.01)	
A 61 K 35/17(2015.01)	
A 61 K 48/00(2006.01)	
A 61 K 39/395(2006.01)	20
A 61 K 47/64(2017.01)	
C 12 N 15/62(2006.01)	

【F I】

C 07 K 19/00	Z N A	
C 07 K 16/16		
C 07 K 14/725		
C 12 N 5/10		
C 12 N 5/02		
A 61 P 35/00		
A 61 P 37/04		30
A 61 P 35/02		
A 61 K 35/17		
A 61 K 48/00		
A 61 K 39/395	N	
A 61 K 39/395	T	
A 61 K 47/64		
C 12 N 15/62	Z	

【手続補正書】

【提出日】令和5年4月4日(2023.4.4)

40

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

対象における疾患または病態を処置する方法において使用するための、遺伝子操作したT細胞であって、

前記遺伝子操作したT細胞は、キメラ抗原受容体(CAR)をコードする核酸配列を含み

50

前記 C A R は、

- a) 抗原結合領域を含む細胞外ドメイン；
 - b) 膜貫通ドメイン；
 - c) 細胞内シグナル伝達ドメイン；および
 - d) 調節可能な不安定化ドメイン (R D D)
- を含む、遺伝子操作した T 細胞。

【請求項 2】

前記 R D D が、ジヒドロ葉酸還元酵素不安定化ドメイン (D H F R D D) を含む、請求項 1 に記載の遺伝子操作した T 細胞。 10

【請求項 3】

前記 D H F R D D が、大腸菌ジヒドロ葉酸還元酵素不安定化ドメイン (e c D H F R D D) である、請求項 2 に記載の遺伝子操作した T 細胞。

【請求項 4】

前記 R D D が、F K 5 0 6 結合タンパク質不安定化ドメイン (F K B P D D) を含む、請求項 1 に記載の遺伝子操作した T 細胞。

【請求項 5】

前記 F K B P D D がヒト F K B P D D である、請求項 4 に記載の遺伝子操作した T 細胞。 20

【請求項 6】

前記膜貫通ドメインが C D 2 8 膜貫通ドメインである、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の遺伝子操作した T 細胞。

【請求項 7】

前記細胞内シグナル伝達ドメインが 4 - 1 B B 共刺激ドメインを含む、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の遺伝子操作した T 細胞。

【請求項 8】

前記細胞内シグナル伝達ドメインが C D 2 8 共刺激ドメインを含む、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の遺伝子操作した T 細胞。 30

【請求項 9】

前記細胞内シグナル伝達ドメインが C D 3 ゼータシグナル伝達ドメインを含む、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の遺伝子操作した T 細胞。

【請求項 10】

前記疾患または病態ががんである、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の遺伝子操作した T 細胞。

【請求項 11】

前記抗原結合領域が腫瘍抗原に対して特異的である、請求項 10 に記載の遺伝子操作した T 細胞。

【請求項 12】

前記腫瘍抗原がジシアロガングリオシド G D 2 である、請求項 11 に記載の遺伝子操作した T 細胞。 40

【請求項 13】

前記がんが、神経芽腫、神経膠芽腫、正中神経膠腫、骨肉腫、肉腫、B 細胞系急性リンパ芽球性白血病、B 細胞慢性リンパ性白血病、B 細胞非ホジキンリンパ腫、白血病およびリンパ腫、急性リンパ芽球性白血病、ホジキンリンパ腫、または、小児急性リンパ芽球性白血病である、請求項 10 または 11 に記載の遺伝子操作した T 細胞。

【請求項 14】

前記疾患または病態が感染症である、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の遺伝子操作した T 細胞。

【請求項 15】

前記抗原結合領域が感染症抗原に対して特異的である、請求項 14 に記載の遺伝子操作し 50

た T 細胞。

10

20

30

40

50